

湯湾岳で対策に取り組みたい外来種

外来種の早期発見にご協力をお願いします。

特定外来生物

外来生物法に基づき指定されている種です。特定外来生物は飼育・栽培・保管・運搬・輸入・販売・譲渡・放出などが原則として禁止されています。

ツルヒヨドリ



特徴

つるで絡みつきながら広がる。11-12月にかけて小さな白い花が集まってつく。葉は対生、葉脈が弧を描くように伸びるのが見分けのポイント。

影響

繁殖力が強く、覆いかぶさることで在来の植物を枯らす。

オオキンケイギク



特徴

オレンジ色の筒状花と舌状花を持つ典型的なキク科の花。5-7月に開花する。1980年代に観賞用、緑化用として導入され、各地で逸出した。冬季はへら状の葉を広げ、ロゼットの状態で越冬する。

影響

河川敷などで群落をつくり、在来の植物の減少をまねく。

特定外来生物

ニューギニアヤリガタリクウズムシ



特徴

コウガイビル仲間であり、外見はヒルなどに似ている。繁殖能力が高く、体の破片からも再生が可能。体の中央に白いラインがあるのが特徴。



影響

陸産貝類を捕食して減少をまねく。ヒトにも感染する広東血線虫という寄生虫の宿主。

県指定外来生物

鹿児島県の条例で指定外来動植物に指定されている種です。適切な施設で飼育等が義務付けられるほか、野外への放出（放出・植栽・播種）が禁止されています。

オウゴンカズラ



特徴

茎から付着根と呼ばれる根を伸ばして樹木に張り付く。葉は長さ50~100cm、幅20~40cmになる。ポトスという名前で観賞用に流通している。



影響

木に巻き付いたり、地面を貼ったりして、大きな葉で光を遮るため、在来の植物を枯らす。

県指定外来生物

ムラサキカッコウアザミ



特徴

冬の2月頃から秋まで紫色の花を咲かせる。一年草でタネで繁殖する。全体に毛が密生する。

影響

他の植物がないところで急速に侵入して一面を覆う。

アメリカハマグルマ



特徴

つる状に匍匐し、根を出してのびる。多年生で年間を通じて繁殖する。縁がぎざぎざした葉っぱが特徴。

影響

匍匐して伸び、覆いかぶさることで在来の植物を枯らす。

その他の注意すべき外来種

低地では一般的な種もありますが、湯湾岳の登山道沿いにはまだ侵入しておらず、侵入した場合、脅威になる可能性があります。

明るい環境で群生する種

横走る茎を持ち、面的に広がる種。
登り口や神社周辺など明るい環境で注意。

センダングサ類

とげのある種をつけ、動物や人の衣服にくっついて運ばれる。



セイトカアワダチソウ

長い地下茎を持ち、草丈は3m程にもなる。
秋に黄色い花を咲かせる。



モミジヒルガオ

モミジ状に葉っぱがつく。
つるを伸ばして木などに絡みつき繁茂する。



湿った環境を好む種 林内の湿った環境や神社周辺の石段などで注意

コゴメミス



**セイヨウ
ミズユキノシタ** 花弁のない花が特徴



キク科越年草 冬季はロゼットで越冬し、種を量産する。

ヒメムカシヨモギ



ケナシヒメムカシヨモギ



ヒメジョオン



冬季の状態

ヒメジョオンの
ロゼット
地面に葉を
広げて越冬する



在来種ウケユリとの交雑の懸念

タカサゴユリ



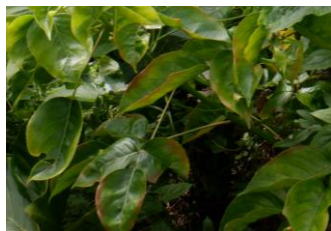
タカサゴユリはウケユリに比べて葉が細く、花筒が長い。

※在来種との判別は難しいですが、疑わしいものをみつけたら報告をお願いします。



木本

アカギ 葉は3枚の複葉。
沖縄では在来種として生育する。



半陰地で生育旺盛

アフリカハウセンカ



本資料の外来種をみつけた場合は
下記の報告先に連絡をお願いします。

【報告先】環境省奄美群島国立公園管理事務所

メール：RO-AMAMI@env.go.jp

TEL：0997-55-8620

【報告をお願いする内容】

- ・ **種名**（疑わしい場合も含む）
- ・ おおよその**位置**
（可能であれば地図への記入又はGPSデータがあるとよい）
- ・ **写真**（生育状況、特徴的な部分）